**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第４１回　（２０１８年　２月６日）**

**・第４１回の勉強範囲：「第一章　師と弟子」１４頁**

みなさん、勉強会で勉強したことを深く理解するために、自分で何を勉強したかを必ず復習してください。本当に学んだことを自分のものにしたいなら、一回聞いてメモを取るだけでは、心に入りません。

前回はシュリー・ラーマクリシュナの4つの助言のちの、「ときどき出家僧と暮らす」、

「ひと気のないところに行って、神を瞑想する」、そして「識別する」の途中まで説明しました。今回は「識別する」と「祈る」について説明します。

**（３）識別する　（続き）**

**識別の方法**

1. **「考え」という鎖に縛られている、ということを識別する**

毎日の生活のことを考えてください。我々は食事、会話、仕事のとき、心は考えたり想像したりしています。肉体のレベルでは、あるときは動いていますが、あるときは休んでいます。しかし、心のレベルでは考えがずっと続いていますね。

そして、**考えの主な対象は、自分、家族、仕事**の3つです。

我々のすべての考えは、この3つのテーマから離れません。いろいろ考えても、またその考えに戻ります。

**・「心の世界」に住んでいると、執着がなくならず、不安､苦しみ､悲しみの源になる**

二種類の世界があります。ひとつはふつうの「物質的な世界（real world」です。そしてもう一つは、「自分の考え」が作りあげた世界、「心の世界(mental world)」です。

**我々は「物質的な世界」より「心の世界」の中に多く住んでいます**。

そのことは内省するとすぐに分かります。我々は「心の世界」の中で、自分、自分の家族や友達、仕事、から離れられません。ずっとそれらのことにフォーカスしています。そしてそれが執着です。そして、それが**我々のストレス、不安、苦しみ、悲しみの源**です。

**･考えという鎖に縛られて「心の世界」から出られないので､真理を得られない**

「心の世界」は「自分の考え」で作っていますでしょ。

みなさん、省みてください。自分の考えが正しくないことも結構ありませんか？

自分のイメージが正しくない可能性は結構あります。ですが「心の世界」は自分の心だけの世界ですので、誰も直してくれません。例えば、我々の本性は永遠ですが、そのことを考えずに、間違って今生での生活が自分の全てだと考えていませんか。

そして、**自分が家族や仕事のことばかり考えて「心の世界」から出られないと、私たちは、本当の自由、本当の幸せ、本当の知識、真理を得ることはできません**。

自分の作った「心の世界」から出ることは大変難しいです。

例えば、仕事をしているときにオフィスから、肉体が出ることは可能ですが、心が仕事のことから出ることは難しいです。なぜなら、心は仕事についてフォーカスして考えているからです。そしてその考えが束縛です。鎖です。**我々は、仕事という考えの鎖に縛られています**。そして**その状態にある間、自由のことを考えられず、真理を得ることはできません**。

1. **今の人間関係は今生だけと識別する**

もう一つは、前回に説明しましたが、今の人間関係は今生ですべて終わりだ、ということを識別してください。

1. **輪廻について考えて、識別する**

想像してください。

前世で我々は、今とは全く別の仕事、家族、宗教、国、名前、形でした。前前世では、それとはまた別の仕事や家族でした。その都度我々は、その時の家族や仕事にとても執着していたはずですが、そのことを全く覚えていませんね。また、来世では、今生のことを全く覚えていないでしょう。**我々の心の状態は、今生にとてもフォーカスしているので、そこから離れられませんが、輪廻のことを思い出して、識別してください。**

そうしますと、今生も前世と同じように、永遠に続くものではないことがわかります。

1. **「心」と、「ずっと変わらないもの＝魂」を識別する**

我々は前世のことを全然覚えていませんね。例えば、「前世のだんなさんが死んだ時のことを思い出して、悲しい」ということはありませんでしょ。我々が執着しているのは、今生の家族や仕事に対してだけです。前世で執着していた対象と今生の対象は、別々です。

心と体と魂について考えてみましょう。我々の心はあるときうれしい、あるとき悲しい。心の対象も、記憶の対象もいろいろです。我々はさまざまな経験の結果で、苦しみ、悲しみが出ます。それは心と体が経験していることです。魂の経験ではありません。それを識別してください。

体と心は何回も新しいものに生まれ変わりますが、その中に**一つだけずっと続いていて、何も変化しない「魂」があります。それについて集中して考えてください**。そうしますと、体と心は現れては消え、また現れては消えるというイメージがわかります。

そのようにして、**魂と心を識別しないと、すべての経験の中に自分の幸せが出ません**。

心は時々大変だと感じたり、忘れたり、新しいことを考えたりします。そのように心は刻々と変化しています。また、体も変化していることはわかりますね。その中で何も変化しないのが、魂だということを識別して、体と心から離れないと、執着はなくなりません。

そのためには先ほども言ったように前世と来世のことも想像してください。そうすると、今の家族や仕事は永遠ではないことがわかります。そして、今、我々が集中して考え、離れることができないものごとが、永遠ではないことがわかります。

**これらの識別は、瞑想の時に、静かに座って、目を閉じて行ってください**。

そして、私意識について考えてください。私意識は前世の私の時と同じです。ずっと続きます。我々は前世の経験がありますが、覚えていません。今生で新しく経験したことも、来世では忘れます。しかし私意識はずっと続きます。

その**私意識は永遠なもの、魂からでています**。

1. **祈る**

祈りとは、「自分が持っていないものを、神様にお願いして手に入れたい」、「ふつうではできないことを、神様に叶えてほしい」と考えた人がしますね。

例えば、お寺の絵馬には、「長生きできますように」、「お金がもうかりますように」、「学校に合格しますように」という願いを書きます。その内容はほとんどが世俗的ですね。

どうして世俗的な願いなのに世俗的な場所に行って叶えてもらおうとせずに、お寺や神社に行ってお願いをするのでしょうか？なぜなら、

「神様のおかげで願いが叶う」と皆さんが考えているからです。

そしてお金がかからない。

それらの理由でお寺に行って祈ります。

では、皆さんが考えている「神様のおかげで願いが叶う」とはどういうことでしょうか。

そう考えている人はまず、

神様は存在する

神様には力がたくさんある

神様は全能

神様は慈悲深い

神様の恩寵で願い事が叶う

という信仰が少なくともあります。

しかし、それだけでは、神様を信じていますが、霊的なもののためには祈りません。絵馬に書くような世俗的なことだけを祈ります。「神様、知識を与えてください」「信仰や帰依を与えてください」とは祈りません。

なぜなら、「自分の中に信仰がない」という意識、気づきがないからです。

そして、お金、結婚、仕事、受験など望みを叶えてほしいときだけ、神様に祈ります。

**・シュリー・ラーマクリシュナの祈りは霊的で目的は解脱**

それに対して、シュリー・ラーマクリシュナの祈りの目的は霊的です。

本当の目的は解脱ですから。

「信仰faith(ヴィシュワス)と　帰依devotion（バクティ）を与えてください」

それが霊的な祈りです。

**・霊的になりたいと願い、神様の力を信じて祈る**

**霊的になるための一番最初の段階は、「霊的になりたい」という思い**です。そこから始まります。または、**神様を好きになって、「神様を悟りたい」という思い**が大事です。

そして、悟りたいと考えたなら、そのためには悟るための信仰や知識や識別が必要になりますね。ですので「**神様、私には悟りための信仰も知識もないので、どうぞ与えてください**」と祈ります。

悟るために十分な知識や信仰があるかどうかを自分でチェックしてみてください。そしてもしないことがわかれば、神様に「与えてください」と祈ります。

なぜなら、**神様だけが与えることができます**から。

そしてその**祈る心の中には、**

**「神様はいます。力があり慈悲深いです。神様の力と恩寵で私の祈りを叶えてくれます」**

**という信仰も大事**です。

**神様への3つの疑問とその答え**

さて、我々が神様に祈る時、**本当に神様がいないと祈る意味がありません**。

そして、たとえ神様がいても、**神様が我々の願いを聞いていないと意味がない**です。

さらに我々の言うことを聞いていても、それを**叶える力がないと意味がない**です。

そう思った時から、霊的な疑問が始まります。本当に神様がいるかどうかは、大きな混乱となります。

**疑問①　神様は本当にいるか**

「神様がいるかどうか」を考える二つの方法を説明します。

1. **「創造」の理論、原理を考える**

宇宙は創造物ですので、何かによって創造されました。物質は自分で自分を創造することはできません。例えば、ある建物が、隣に別の建物を作ろうと考えても、作ることはできないですね。意識を持っている存在だけが、ものを作ることができます。そのために意識を持った存在が必要です。その原理を使うと、宇宙は絶対に何か「意識ある存在」によって創造されました。それが神様です。一番偉大なレベルの意識ある存在です。

1. **信仰を持つ**

もう一つは信仰です。

**聖典の中で「神様はいます」と言っています。そして聖者も「神様はいます」と言っています。そのことを信じます。**

聖典の中には、物語や想像の部分もありますので、聖典が言っていることが本当は正しいか正しくないか、分からないかもしれないです。しかし、悟った人は本当に存在します。その人が「神様がいます」、と言っているのでそのことを信じます。

それくらいの信仰はないと、霊的に進むことは難しいです。

一番最初からすべてを疑いますと、霊的に進めないです。

ですが、１００％神様がいると信じることはできないです。なぜなら、本当は１００％の信仰は、悟った人だけしか持つことができないからです。ほかの人は１００％ではありません。

我々は、そんなに信仰がなくても、そこから始めて問題ありません。

シュリー・ラーマクリシュナは、「ある程度信仰を持ってから祈ってください」とは言っていません。

**・神様を信じていなくても、誠実な祈りは届く例**

ある学者で良い人が、シュリー・ラーマクリシュナのもとを訪れました。彼は、「私は神様を信じていません」と言いました。

シュリー・ラーマクリシュナはそれを聞いて、

「あなたは神様を信じていなくても大丈夫です。では『神様、もしもおられるのなら、私はあなたに祈ります。どうぞ祈りをかなえてください』と祈るのはどうでしょうか」と訪問者に尋ねました。

訪問者は「それなら問題ありません」と言いました。

そしてその人はシュリー・ラーマクリシュナに言われたとおりに祈って、霊的に進みました。そして後に、その人は大きく変化し、神様の信者になりました。このことはトゥリヤーナンダジが言っていますね。

しかし、このやり方は、誠実で心からその実践ができる深い人でないと結果が出ません。浅い人には無理です。

**疑問②　神様は私の言うことを聞いているか**

神様はいると信じていても、神様が本当に我々の祈りを聞いているかどうか、という疑いもありますね。そのことについてシュリー・ラーマクリシュナは言いました。

「アリの足音でも神様は聞いています。**絶対にすべての祈りを神様は知っています**」

ホーリー・マザーも同じことを言いました。

**疑問③　神様はどうして祈りを叶えてくれないのか**

例えば、AさんがB社で仕事をすることを希望し、B社に履歴書を送りました。AさんがB社で働けるかどうかをAさん自身が決めることはできませんね。B社の人事担当者にお任せしないといけません。自分の願いだけでは決められないのです。

それと同じように、私が神様に祈っても、神様がいろいろと決めます。例えば、

・**この祈りを叶えることは、その人にとって良いことかどうか**

　　　→その人にとって良ければ叶える、良くなければ叶えない

**・祈りをいつ叶えるか**

**・どのように叶えるか**

**・どれくらい叶えるか**

それら**すべてを神様は考えて決めます**。

我々の希望はすぐに１００％を叶えてもらうことです。祈りがまるで命令のようです。そしてもし叶えられないと、信仰がなくなることもあります。

**・悪いサムスカーラの影響ですぐには叶えられない**

例えば、「神様、私が深く瞑想ができるようになりますように」とお願いするとします。その祈りは、とても良い祈りですね。しかしそう祈ったのに深い瞑想ができない。

また、「神様への愛をもっと与えてください」と祈っても深い愛が出ない。

「もっと純粋にしてください」と祈っても、心の中に結構汚いことがあります。

これらの祈りの内容はとても良いのに、どうして神様は叶えていないのですか？

なぜなら、**前世からの悪い汚いサムスカーラがいっぱいあるからです**。

そしてそれは**そんなに簡単にはなくならない**です。ゆっくりゆっくりとなくなります。

なぜなら、もし**突然悪いサムスカーラがなくなりますと、その反作用も大きい**可能性があります。ですので、**自然にゆっくりゆっくりなくしていかないといけません**。

「すぐに心がきれいになりたい」「すぐに深い瞑想がしたい」「すぐにサマーディの経験が欲しい」ということは無理です。

バガヴァッド・ギーターの中で、アルジュナがシュリー・クリシュナに「あなたの宇宙的な姿を見せてください」と言いました。シュリー・クリシュナは、宇宙的な姿をアルジュナに見せました。アルジュナはとても勇敢で純粋な人でふつうの人ではありませんでしたが、それでもその姿に恐れおののいて「もうやめてください」と言いましたね。

**祈りが叶えられるために自分ですべきこと**

1. **努力**

神様がすぐに願いを叶えたくない理由がわかりましたね。準備をゆっくりゆっくりしなければならないからです。そして神様が願いを叶えてくれる準備が始まりましたが、自分自身でしなければいけないこともあります。

まず、努力が必要です。そして**我々は力を神様から授かっています。**ですので、神様は「**私はあなたに力を与えました。あなたには力があります。それを使ってください。もしその力がなくなったときは、また新しい力を与えます**」と思っています。

例えば、30分瞑想をする力を与えたので、30分瞑想をしてほしい、と神様が思っていても、あなたが「時間がない」などと、言い訳を作って瞑想をしないと、神様は絶対に願いを叶えません。もっと清らかになりたいと言いながら、たった30分の瞑想もできない。もしくはたとえ30分瞑想をしても、その間中、スケジュールのことばかり考えていたり、居眠りをしていては、霊的に進めません。どれだけ祈っても結果はゼロです。霊的な祈りをしても、努力をしないと結果はゼロです。努力をしてください。

1. **忍耐**

そして、努力だけではなく、忍耐も必要です。

アドブターナンダジの教えの中に、忍耐についての教えが結構あります。もしあなたが神様にお任せしたいなら、忍耐がたくさん必要です。まず、神様に祈ってください。それから神様にお任せをしてください。そしてその祈りを神様がいつ叶えるかは、神様だけが知っています。我々には絶対にわからない。だから我々は、神様が祈りを叶えてくださるまで、忍耐をしないといけないのです。

1. **祈ったことと、やり方があっているかを識別する**

そして識別も必要です。

例えば、おなかが痛くて病院に行きます。希望はお腹が痛いのを治すことですね。そしてお医者さんから薬をもらいました。しかしもしあなたがその薬を飲みながら、消化に悪いものをずっと食べ続けますと、お腹が痛いのは治りませんね。あなたの希望とあなたの行動は反対です。それでは病気はもっとひどくなる可能性もありますよ。

それと同じように、自分が祈ったことと、自分の生活態度が反対になっていないかどうかを識別しないといけません。毎日の生活と祈りがもしバラバラだと、祈ったことを叶えることはできません。

あなたが本当に「清らかにしてください」と真剣に祈っても、毎日の生活の中で、大なり小なり清らかになるためのやり方とは反対のやり方をしていては、結果は出ません。それは神様の責任ではないでしょ。

1. **神様にお任せする**

あなたの祈りが本当にあなたのために良いかどうかを神様にお任せしてください。

あなたの祈りを神様がいつ叶えるか、それもお任せしてください。

**・祈りが叶えられるかどうかを神様にお任せしないといけない理由**

ある医者の奥さんは、ホーリー・マザーの信者でした。彼女はホーリー・マザーに「だんなさんの稼ぎをもっと増やしてださい」とお願いしました。するとホーリー・マザーは怒って「それはできません」と言いました。

なぜなら、お医者さんの収入が増えるということは、病気の人がたくさん増えるということですから。病気の人が増えることは、ホーリー・マザーはもちろん嫌です。

ホーリー・マザーはその信者に直接「できません」と言葉で伝えました。

もしその信者がホーリー・マザーではなく、神様にその祈りをしていたら、神様は言葉で「その祈りを叶えるのは嫌です」とは言いませんね。神様には考えがありますが、我々はその考えを言葉で聞くことはできません。

だから、我々は祈りが叶えられるかどうかは、神様にお任せするしかないのです。

**・いつ願いが叶えられるかを神様にお任せする**

例えば、インドがイギリスに統治されていた時代に、あるインド人が母なる神様に「神様、どうぞインドを解放してください。そしてこの祈りはいつ叶えられますか？」と聞きました。母なる神様は答えました「それは60年後に叶えられるでしょう」

「マザー、それでは困ります。その時私はもう生きていません」とその人は言いました。

なぜなら、その人の希望は、結果を自分がもらうことだからです。しかし、この祈りは皆さんの祈りです。そしてその祈りをいつ叶えるかは、神様が決めます。

『福音』の中のタクールの４つの助言のひとつは「神様に祈ってください」でした。

そして祈りが叶えられるように、

・努力してください。

・忍耐を持ってください。

・自分の毎日の生活をコントロールしてください。

そうすると、神様は絶対に願いを叶えようと決めます。絶対に結果は出ます。

（第41回『福音』勉強会）以上